

第41回広瀬川創生プラン策定推進協議会 議事録

- 日 時:令和2年10月26日(月曜日) 15:00~16:30
- 場 所:仙台市役所本庁舎2F 第1委員会室
- 出席委員:小祝 慶紀 会長、小田 隆史 会長代理、
岩崎 雄一郎 委員、大庭 克己 委員、佐々木 敦 委員、須藤 誠元 委員、
高橋 順子 委員、多田 千佳 委員、豊嶋 純一 委員、野澤 直樹 委員
深松 努 委員、本郷 敏章 委員、牧野 弘明 委員、谷田貝 泰子 委員

■ 欠席委員:西大立目 祥子 委員

■ 事務局:仙台市建設局百年の杜推進部河川課

■ 内 容:

<次 第>

1. 開 会
2. 挨拶
3. 会 長 選 出
4. 広瀬川創生プラン策定推進協議会について
5. 議 事
広瀬川創生プランの中間見直し(素案)について
6. 報 告
令和2年度重点事業の中間報告について
7. 閉 会

■ 要 旨:

- 広瀬川創生プランの中間見直し(素案)について、事務局案が了承された。今回各委員よりいただいた意見やパブリックコメントの結果に基づき、事務局にて修正案を作成し、次回協議会で検討する。

■ 議事詳細：

1. 開会

○司会（吉田課長）

只今より「第41広瀬川創生プラン策定推進協議会」を開会する。本日、司会を務める河川課長の吉田である。本日は、出来る限りの感染症対策をとって、本会議を開催する。

《配布資料の確認》

お集まりの皆様には、学術的な観点や、河川管理等の観点、広瀬川での社会貢献活動や観光面での広瀬川の活かし方等の知見や、広瀬川をフィールドとして活動されているご経験等、それぞれのお立場からご意見をいただきたく、広瀬川創生プラン策定推進協議会の委員を仙台市長から委嘱させていただいている。任期は、令和4年3月31日までである。よろしく願いたい。

《委員および仙台市職員の紹介》

西大立目委員は、本日所用により欠席との連絡を受けている。

2. 挨拶

○司会（吉田課長）

建設局長の千葉より挨拶を申し上げる。

○千葉建設局長

本日は、お忙しい中、出席いただき感謝申し上げます。また、今回、協議会の委員をこころよく引き受けいただいたことも、重ねて感謝する。

今年は新型コロナウイルスの影響により、本市が関係する多くのイベントが中止となった。毎年ゴールデンウィークに実施している「広瀬川で遊ぼう」や、夏休みに実施している「作並かつぱ祭り」などにもこの影響が及び、例年どおりの開催ができなかった。「今年はやらないのですか？」といった問合せを複数いただくなど、改めて地域で楽しみにしていたイベントであったと再認識したところである。

しかし、最近はコロナ対策を実施しながら、少しずつではあるが、従来からの取組みを再び始めたところである。

さて、本日は議事として「広瀬川創生プランの中間見直し」についてとりあげている。これまで協議会において「骨子案」までお示ししたが、この骨子案の内容をとりまとめ、素案を策定したので、忌憚のない意見を頂戴したい。

本日は、限られた時間であるがよろしく願いたい。

3. 会長選出

○司会（吉田課長）

会長は、本協議会設置要綱の第5条第1項に基づき、委員の中から互選により選出したい。どなたか推薦はあるか。

○深松委員

前任期中に会長を務めた小祝委員に、引き続きお願いしたい。

=一同異議なし=

=小祝委員了承=

○司会（吉田課長）

それでは、会長を小祝委員にお願いする。続いて、同じく要綱の第5条第3項に基づき、会長代理となる委員を、小祝会長に指名頂きたい。

○小祝会長

会長代理は、小田委員にお願いしたい。

=小田委員了承=

○司会（吉田課長）

それでは、会長代理を小田委員にお願いする。小祝会長、小田会長代理より挨拶をお願いしたい。

○小祝会長

東北工業大学の小祝である。新型コロナウイルスの影響により、1年前はこのような状況になるとは思ってもみなかった。

広瀬川は仙台市にとって宝の川であり、皆様と広瀬川の魅力を次世代に伝えていくという責務があると思っている。微力ではあるが、できる限りのお手伝いをしていきたい。

○小田会長代理

宮城教育大学の小田である。この協議会の委員としては2期目である。前期は右を左も分からないところから、広瀬川や広瀬川創生プラン、そしてこの協議会について少しずつ理解を深めてきた。委員となったことに加えて新型コロナウイルスの影響もあり、広瀬川を散歩するようになったが、改めて広瀬川の美しさを実感している。

皆様に配布した防災教育のブックレットについて簡単に紹介したい。

近年は、被害の大きい災害が相次いでいるということもあり、自然の恵みと自然の驚異を学ぶ防災教育が重要となっている。それを教員が子供たちに、どのように教えていったらいいのか、ということを手引きとしてまとめたものである。このような河川への理解について教育を通じて深めていくという取り組みを進めている。協議会でも皆様と一緒に情報を共有させていただきながら、私も微力ながら協力していきたい。

4. 広瀬川創生プラン策定推進協議会について

○司会（吉田課長）

本協議会に初めて出席される方もいるので、広瀬川創生プランにおける本協議会の役割について、事務局より簡単にご説明する。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

資料 1 に沿って説明。

○司会（吉田課長）

ただいまの説明に対して、何か質問はあるか。

=質問なし=

5. 議事

○司会（吉田課長）

それでは、議事に入る。出席委員が全委員の過半数に達しているので、要綱第6条第2項により本日の会議は成立している。これより議事の進行は、要綱の第6条第1項に従い小祝会長にお願いする。

○小祝会長

まず、会議の公開または非公開について確認したい。非公開となる事案がないので、今回の協議会は公開としてよろしいか。

=一同了承=

次に議事録の署名は五十音順で岩崎委員にお願いしたいが、よろしいか。

=岩崎委員了承=

それでは次第に沿って、進めさせていただく。「広瀬川創生プランの中間見直し(素案)」について事務局より説明をお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

資料 2,3 に沿って説明。

○小祝会長

ただいまの事務局からの説明について何か意見のある委員はいるか。

○谷田貝委員

プラン自体はまとまっており良いと思う。推進体制における広瀬川市民会議やネットワークのあり方などの課題に対して提案したい。

広瀬川に関わる活動団体には、我々と一緒に活動している団体もあるが、顔が見える関係となっているのは一部である。それぞれの活動を広げ推進していくために、色々な活動団体同士が交流できるように、仙台市が事務局等を担い呼びかけをすることできっかけをつくり、意見交換会や活動発表会等、お互いを知ることが出来る取組みを企画していただくと効果的であると思う。

宮城県の環境対策課では、市町村等の行政とNPOや任意団体等の関係団体による意見交換会を年1回行っている。また国土交通省では河川協力団体という制度があり、広瀬川・名取川流域の4団体による意見交換会を年1回行っている。意見交換会をきっかけにお互いに知り合うことが出来ている。同様のことが広瀬川でも出来ると思っているので、仙台市が中心となって、つないでいただけると良いと思う。

また、仙台市でも「杜の都の市民環境教育・学習推進会議」(Feel Sendai)の事務局が環境局環境共生課にあり、Feel Sendaiの委員であるNPOの方や任意団体の方が意見交換し、環境教育を進めるための事業を実施している。色々な事例があるので、このような取組みにより広瀬川に関する活動団体同士もネットワークが出来ると考えている。

○小祝会長

貴重なご意見、感謝する。推進体制における仙台市の役割についてご意見をいただいた。事務局から何かあるか。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

お互いの顔が見える関係を構築することは重要だと認識している。本市でも何らかの形で、活動団体同士が連携できるつなぎ役を担いたいと考えていたが、具体的な例を教えてください感謝する。今後、場合によっては個別に相談させて頂きながら検討していきたい。

○小祝会長

貴重な意見なので事務局には、何らかの形で素案のほうに反映いただきたい。他にご意見あるか。

○多田委員

広瀬川に関わる活動している団体が、これまでの活動を紹介する機会を1年に1回設けることを素案に記載してはどうか。コロナ禍により対面での顔合わせは難しいかもしれないが、団体名や活動概要、写真数枚等が記載された冊子を見るよりも、オンラインミーティングでも良いので、お互いの顔が見える状況で、会話や互いの活動を紹介する方が、新しいアイデアが出るのではないかと思う。

中間見直し(素案)の冊子については、活動団体の写真を掲載するのであれば、活動に関する説明の記載などもあった方が良いと思う。

○小祝会長

各団体の交流に関するご意見と中間見直し(素案)の記載方法に関するご意見をいただいた。事務局より何かあるか。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

活動団体の交流の機会については、定期的な開催を考えていきたい。その場合、定期的に活動の報告を求めるなど内容によっては、活動団体に負担をかけてしまうこともあるため、開催方法や内容については今後検討する。いずれにしても、顔が見える関係のきっかけ作りを考えていきたい。

活動団体の取組事業の説明等については、取組事業集として、別冊のリーフレットのようなものを作成する予定である。取組事業に関する情報は、そちらにより詳しく掲載していきたい。

○小祝会長

多田委員のご意見も参考に、事務局にて素案に反映していただきたい。他にご意見あるか。

○本郷委員

仙台市が活動団体のサポートをしながら課題を解決していく、という方向性はよく理解できるが、もう一つ課題となっている広瀬川市民会議は今後、どのような位置づけとしていくのか伺いたい。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

広瀬川市民会議は、今後もネットワーク組織として位置付ける。これまでも広瀬川市民会議の体制強化に取り組んできたが現在も課題として残っている。新たな会員が入会してくることが重要であるため、引き続き本市がサポートし広瀬川市民会議と会員の募集方法などを検討していきたい。

○小祝会長

広瀬川市民会議の体制強化は難しい問題であるが、今後も引き続き取組んでいく必要がある。他に意見あるか。

○岩崎委員

2点ほど意見を申し上げたい。1つ目は、SDGsの17のゴールについてである。仙台市では、17のゴールに取り組んでいくということだが、広瀬川創生プランでは4番「質の高い教育をみんなに」、15番「陸の豊かさを守ろう」を重点的に取り組んでいく、と加えてはどうか検討いただきたい。

2つ目は、素案の策定に直接関わらないが、市民の方々に広瀬川に対し興味を持っていただくきっかけについて申し上げたい。私は高校時代、地学の先生から広瀬川の痕跡が市内の至る所にあることを教わった。例えば、藤崎デパートの青葉通り側のエスカレーターは広瀬川の河岸段丘の痕跡と教わった経験がある。多くの市民に、どのようなきっかけでも構わないから、このように興味を持っていただくきっかけをつくり、そこから仙台市の取組みを知ってもらうことが必要だと感じた。

○小祝会長

貴重なご意見感謝する。今のご意見に対し、事務局から何かあるか。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

まずSDGsについてである。広瀬川創生プランでは5つの基本目標を掲げており、素案ではその目

標に関連するSDGsのゴールを記載している。15番「陸の豊かさも守ろう」については、豊かな水環境を保全していくためには、陸上の動植物を含めた自然環境の保全も重要な要素となるので、複数の目標にゴールとして位置付けている。4番「質の高い教育をみんなに」については、素案の基本目標に位置付けていなかったが、基本目標 ii の「河川と共にある暮らしの実現」に合致すると思うので、こちらに4番のゴールを位置付けたい。

河岸段丘のお話を例に、ご意見をいただいたが基本目標 ii の施策に基づき、身近な広瀬川の魅力を市民に感じてもらえるよう取組んでまいりたい。

○小祝会長

SDGsの推進は重要な取組みである。ぜひ素案に取り込んでいただきたい。他にご意見あるか。

○深松委員

広瀬川市民会議は、広瀬川のことが非常に大好きな方たちが集まって活動されている団体であるが高齢化により、実際に活動される方が限られている。ゴールデンウィークには毎年同じ人で「広瀬川で遊ぼう」を実施しているため、こうした人たちはゴールデンウィークに休めないなど、負担が大きい面がある。

先程、提案のあった活動団体が交流できる機会があれば、例えば様々な団体の方が広瀬川市民会議の一員になっていただき、交代制でイベント等の催しに取り組む等、会員の負担を減らす仕組みも考えられる。

○小祝会長

貴重なご意見に感謝する。広瀬川市民会議の課題は、直接今回の素案に関わるものではないが、本協議会として継続して検討していく必要がある課題である。他にご意見あるか。

○豊嶋委員

広瀬川創生プランがあることは知っていたが詳細まで把握していなかった。今回、改めて内容を見たが取組みとして素晴らしいことが書いていると思った。ただ理念と具体的な取組事業に乖離があると感じる。広瀬川創生プランは市民が事業の担い手となるため、どうしても理念と乖離が生まれるのは仕方ないが、理念と取組事業を結びつけていくことが重要であると思う。そのためには、それぞれの取組事業のターゲットを明確にした事業展開が必要だと思う。また、広瀬川への市民の想いは濃淡がある。広瀬川流域に住んでいる人もいれば、七北田川流域に住んでいる人もおり、広瀬川へのかかわり方が違う方達に対して、どう事業としてアプローチしていくのか意識して計画をつくる必要がある。それから、新しい取組みを生んでいく仕組みが見受けられないと感じた。連携することも大事だが、そもそも自立した市民活動がなければ連携は生まれないので、自立した動きが生まれてくると良いと思う。連携の場から生まれる可能性もあるが、それには仕込んでいく必要がある。例えば、広瀬川では国土交通省による「水辺の楽校」という取組みがあるが、普段関りを持っていなかった活動団体が、そこで新たな取組みを始めるのは難しいと感じている。そういうところに新しい取組みを生み出す仕組みなどを考えていくことが必要である。

○小祝会長

実際に広瀬川で活動している豊嶋委員より、実感として貴重なご意見をいただいた。協議会としても幅広い取組事業の育成や、ターゲットの明確化といったことを考えていかなければいけないと思っているが、事務局から何かあるか。

○事務局（広瀬川創生室長 佐藤）

広瀬川創生プランによって、多くの市民に広瀬川のもつ魅力を知っていただく事が最も重要と考えている。このため、今回素案の冊子については、写真を多用し広瀬川の様々な魅力を広瀬川創生プランによって知っていただくことも意識して作成した。広瀬川流域外に住む市民の方々へのアプローチとしても、本プランによりまずは広瀬川の魅力を知っていただき、新たな活動を生み出すきっかけ作りをしたいと考えている。

○小祝会長

各委員より、貴重なご意見をいただいた。今後の予定であるが、今回各委員よりいただいた意見やパブリックコメントの結果を受けて、事務局にて修正案を作成し、次回協議会にて検討する予定であるがよろしいか。

=一同了承=

次に、令和2年度重点事業の中間報告について事務局より報告をお願いしたい。

6. 報告

○事務局（広瀬川創生室 吉澤）

資料4 に沿って説明。

○小祝会長

今年の重点事業の実施状況について、中間報告いただいた。広瀬川1万人プロジェクトや広瀬川自然体験学習では、本協議会に出席頂いている深松委員および牧野委員にご尽力いただいた。感謝申し上げます。今回、報告のあった「広瀬川Heath&Recreation」について、主催の豊嶋委員より、感想や補足等をお願いしたい。

○豊嶋委員

この取組みの経緯としては、「水辺で乾杯」という全国で同時に実施しているイベントの一環として企画したもので、毎年何らかのイベントを実施している。今回は、知り合いの関係者から広瀬川にサウナを設置したイベントを実施してはどうかという提案などもあり、このような企画に至った。主催者としては雨が最も心配だった。前日に雨が降った場合でも増水により中止となる可能性があり、雨天による中止リスクが高いイベントであった。また入水の際に万が一足を滑らせて溺れるといったことも想定されたが、広瀬川市民会議の方々の協力で、安全監視等を担っていただいたのがとても心強かった。イベント自体は様々なところで、取り上げていただけたので波及効果は高かったと感じた。

○小祝会長

次に、まち歩きに実際に参画された片平市民センター館長 高橋委員より感想や補足等お願いしたい。

○高橋委員

仙台市河川課との共催で、「広瀬川ぶらり散歩」と称して、まち歩きイベントを行っている。また本協議会に出席されている豊嶋委員にもガイドボランティアとして大変お世話になっている。

市民センターのガイドボランティア養成講座を受講した方たちにガイドをお願いし、広瀬川界隈を巡るという内容のイベントである。ここ数年は年4回開催しており定員は30名であるが、毎回競争率は2倍以上となっており、とても高い関心をいただいている。

今年度は、コロナウィルスの関係で5月および6月の開催は中止となり、9月および10月の2回開催となった。感染症対策をしつつ開催するにはどのようにすれば良いか、ガイドボランティアの方々と一緒に検討し、密を避けるために今回は6人で1グループとし、全体で3グループの定員18名で開催した。10月の開催では、70名を超える応募があった。現在近くに住んでいる方や、幼少の頃住んでいた方、もしくは県外から転入してきた方など、様々な方に参加いただいている。それぞれの方が何らかの発見をして帰られ、リピーターの方も多し。逆に2回続けて落選してしまったというお電話もいただくことがある。PRをもっと積極的に行えば、より多くの応募者が集まるとも考えている。ガイドボランティアの方たちは、新しいコースを考えようと動いてくれている。

まち歩きをしていると、橋が何回も流された過去のお話を聞くと、広瀬川の魅力とともに怖さも知ることが出来る。広瀬川の怖さもどこかで周知していく必要があると感じている。

○小祝会長

貴重なご意見に感謝する。イベントへの応募者が多いのに驚かされた。県外から転入された方もいたというお話があったが、仙台は支店経済の街であり、仙台に転勤してきた方に広瀬川の魅力をどのように伝えたらよいか、ということについてこれまで協議会で検討したことがある。今後とも皆様のご意見を伺っていきたい。

それでは、令和2年度重点事業の中間報告についてはよろしいか。

＝一同了承＝

7. 閉会

○小祝会長

本日の議事及び報告は以上となるが、その他委員の方から意見や情報提供等はあるか。なければ、本日はこれで終了とする。

○司会（吉田課長）

議事の進行について感謝申し上げる。

以上をもって、第41回広瀬川創生プラン策定推進協議会の一切を終了する。

以上

この議事録について、会議の内容に相違ないことを認めます。

令和 年 月 日

議事録署名人

広瀬川創生プラン策定推進協議会 会長 _____ (印)

委員 _____ (印)